

第 21 回子ども・子育て分科会議事録

日 時 令和元年 5 月 16 日(木) 10:00～11:25

会 場 はぐくみかん 5 階 会議室 3・4

出席委員－石井香、一之瀬幸生、岩波啓之、織田俊美、木津りか、五本木愛、島川浩一、新保幸男、鈴木立也、檜山直春、松本敬之介、宮田丈乃、室谷千英、吉田裕一

欠席委員－菊池匡文、久保山茂樹、小谷亜弓、杉本純子、宮嶋美紗

(五十音順、敬称略)

事務局 ーこども育成総務課 島田課長、飯田係長、椿
こども青少年支援課 奥津課長
こども青少年給付課 吉田課長
保育課 佐藤課長
幼保児童施設課 葛貫課長
児童相談所 高場所長
教育委員会事務局学校教育部教育指導課 羽田係長、渡辺指導主事

傍聴者 2 名

1 開 会

会議定足数報告

出席委員 14 名、欠席委員 5 名で第 21 回子ども・子育て分科会成立。

2 議 事

(1) 次期横須賀子ども未来プラン策定について

3 その他

(1) 平成 31 年 4 月 1 日現在の保育所等利用待機児童数について

(2) 今後のスケジュールについて

4 閉 会

【審議結果】

議事 (1) 次期横須賀子ども未来プランの策定について審議し引続き検討をおこなう。

その他 (1) 保育所等利用待機児童数について、(2) 今後のスケジュールについて了承され質疑応答を行った。

【意見概要】

議事(1) 次期横須賀子ども未来プランの策定について

(吉田委員)

「資料4」の4ページ「他計画との関係」について、施設整備の更新・再編に関するFM戦略プランを「など」で省略せずに表に出してもいいのではないかと感じた。横須賀市だけではなく、県や国などの施設との合築のところも視野に入れて、効率よくできたらいいのではないかと感じた。

また、資料3の11ページに親の子育てをするうえでの悩みに関する自由回答に子どもの友人関係・いじめの不安というのが72件記載があったことから、「資料4」の40ページ以降の「方向性」のところで、「いじめ」というキーワードが、どこかに入ってくるといいのではないかと感じた。

(事務局)

他計画の関係については、今の枠の範囲で提示している。FM戦略プランについては、これから策定する計画であり、入ってくることは当然あると思う。また、いじめについては検討させていただきたい。

(松本委員)

「資料4」の43ページにある「視点」の6について、これはもう少し「地域でさらに積極的に関わっていく必要がある」というような文言を入れたほうが、分かりやすいのではないかと感じた。ここでは「環境づくりを進めます」という言葉しかないのと、もう少し地域の人たちが関わっていくというような内容を加えてほしい。

(事務局)

調整しながら、次回に修正をかけていきたい。

(五本木委員)

「資料4」の42ページの、障害児施策の推進について、「障害の有無にかかわらず、全ての子どもが共に成長できるよう」という記載になっている。今言われている「共に生きる」ではないが、インクルーシブ教育的な「共に育ち合える」というようなニュアンスの文言が入ると、なおいいのではないかと感じた。

(事務局)

「全ての子どもが共に成長できるよう」は、以前はなかった部分を追加したという経緯があり、その項目に記載している。より分かりやすく意図を伝えられるよう、検討したい。

(岩波委員)

プランの方向性に関して、「資料4」の3ページの「プラン策定の趣旨」に、子ども・子育て関連三法が記載されている。この中の柱として、「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」「保育の量的拡大・確保及び教育・保育の質的改善」「地域における子ども・子育て支援の充実」がある。ここで「質」という言葉が2回も出てきて、教育・保育の質のことに言及している。それを踏まえた上でこのプランの方向性を見たときに、ここに教育・保育の質の向上ということが、ほぼ触れられていない。

今は質よりも量について各自治体は頑張っているが、少子化の状況の中では、遅かれ早かれ量の問題よりも質の問題になってくると思う。教育・保育の質で横須賀が選ばれるような市になっていかなければならない。質で選ばれる横須賀になるということも、何かこの中で触れたほうがいいのではないかと感じた。

(事務局)

まず、質の改善については、全ての事業に共通している部分なのではないかと思っている。その辺りも視点として書き込めるかどうか、整理する。

現横須賀子ども未来プランでは117ページ子ども・子育て支援法に基づく特定事業の中の(5)質の高い幼児期の学校教育・保育、地域の保育支援の役割及びその推進方策で、質の向上について触れている。「横須賀子ども未来プラン」は、子ども・子育て支援法の、子ども・子育て支援事業計画という位置づけであるため国からある程度、項目や内容が指定されている。その中で(5)については、質の高い幼児期の学校教育・保育が触れられているが、視点という入口の部分でどこまで書き込み、個別の施策や全体像において、どのような整理をするかについては調整していきたい。

(岩波委員)

大きな方向性があり、それが枝分かれしてきて具体的な施策ができてくると思う。逆に、この5番の具体的な施策は、上に上ったとき、一体どこを源としてこの話が出てくるのかよく分からない部分がある。できる範囲で構わないので、検討していただくとありがたい。

(事務局)

整理する。

(一之瀬委員)

資料3の2ページ以降のニーズ調査結果における自由回答の中で見えてきた部分として保護者も、子育ての悩みなどがある中でも、実際には集会の場、コミュニティの場などには行きづらいところがある。この橋渡しが結構重要になってくるのではないかと思う。市と市民の距離が近づくような、施策が少し入るとよいのではないか。

(事務局)

子育てをする中で、1分でも2分でもいいから「ホッとできる時間がある」というところが、一つキーワードとしてあるのではないか。それがどこまで行政としてでき得るのか、考えていきたい。

その他(1) 平成31年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について

(室谷会長)

待機児童数が70に増えているが、将来はどのような方向で考えていきたいと思っているのか。

(事務局)

基本的な考えとしては、ゼロを目指して具体的な施設整備等に行っていきたいと考えている。今回、久里浜地区が市内でも突出した地域になっている。保育園に分園を設ける、幼稚園をこども園に移行していただくことにより、待機児童を吸収していただくような取り組みを、今後も継続していきたい。

また、量の見込みの算出については相談させていただきながら考えていきたい。現状を見ると、新制度が始まる前と現在の5年間で、ものすごい量でニーズが増えてきている。就業率が全国的に上がっているが、もともと横須賀市を含めた神奈川県は、全国平均に比べて就業率が低く、おそらく国と横須賀

市では就業率が7%から10%くらい違う。国では就業率80%を目指しているが、横須賀市がそこまで目指していくと過剰になる部分ももしかするとあると思っている。

(室谷会長)

教育・保育の無償化制度が発足するが、これと関係はあるのか。

(事務局)

全くないということは言えないと認識している。横須賀市は平成30年度から国に先立って無償化を進めているが、その部分で何人増えたのかと言われた場合実数がかめれないのが現実で、この辺りも含めて、どのように整理していくことになるのかと思う。

(石井委員)

うわまち病院が久里浜に移転すると聞いているが、病院内に保育所がある。現在は、医師や看護師などのお子さんを預かっているが、病院自体にある保育所を、一般的な人も利用できるようにできないのか。

(事務局)

うわまち病院の移転については、所管が健康部になる。私が聞いている範囲としては、うわまち病院にある院内保育をそのまま移転すると聞いている。その上での制度的な部分として、地域の方の受け入れは可能なのか、幾つかの保育園の在り方の形態があるので、そのようなものを見ていかなければいけないのではないかと考えている。今の頂いた意見は、健康部のほうには伝えたい。

(室谷会長)

病児保育などを考えると、病院付属の企業内保育が行われているので、前向きな取り組みをしていただきたい。

(事務局)

久里浜地区については、一つの例として、うわまち病院の中の院内保育の活用ということもある。その他、この地区にもいろいろな事業者があるので、総合的な検討はぜひ進めていきたい。

(五本木委員)

この待機児童に関して、やはり、既存の保育所・こども園・幼稚園はもちろんだが、一時預かりという部分が著しく足りていないのがかなり大きいのではないかと考える。例えば、待機児童に関して、久里浜にこれだけ待機児童が今年度に出してしまっていて、この待機児童を一時預かりなどで、次年度の保育所・幼稚園の申し込みまで受け入れを少し支えるということが必要になってくるのではないかと考える。

以前は兄弟の授業参観に行くときに、近所のおばさんが、下の子を見てくれるということが、普通に地域で起こっていた。今は核家族になり、周りに「知っているおばちゃん」という存在もなくなり、「預けられる場所が欲しい」という声につながっている現状もあるのではないかと考える。その待機児童の受け皿の一つの方法として、一時預かりを活用することは大きいのではないかと考える。

(事務局)

一時預かりの重要性についての認識は持っている。制度的には、幼稚園で新たな預かり制度等はもう

始まっている。まずはこのような今ある制度を活用し、より事業所に理解していただき、幅広く利用できる方向で検討していきたい。

(宮田委員)

この待機児童の問題について、受け皿の施設側からの現状をお話しさせていただきたい。受けたい意思はたくさんあるが、受け皿側としては保育士不足である。その対応策として、保育士不足を解消できるような策を横須賀市ができないと、待機児童の解消は難しいと思う。これは幼稚園も同じ。とにかく職員が集まらなければ対応できないので、質の高い保育提供には、ぜひともこのことも一緒にお考えいただけたらと思っている。

この4月から横須賀市は、保育士確保策に対して温かい支援策も一つ考えていただいているが、さらに講じていかないと、この子どもたちに質の高い保育を提供できない。その辺も、この計画の中で考えていただきたい。

(事務局)

横須賀市として、やはり保育士不足ということは指摘を受けている。今年度の予算の中で、国の処遇改善策に上乘せするかたちで、市単独の処遇改善策を実施している。細かい内容は省かせていただくが、今まで横浜市が手厚い政策を実施していたことにより、どうしても新人の保育士さんがなかなか集まらない、もしくは転職して横浜のほうに行ってしまうという声も聞いていた。

そのような中で、いわゆる流出等を防ぐということもあり、横浜市が実施している処遇改善策と並ぶ県内トップクラスの処遇改善策を、横須賀市としても今回実施させていただいた。

また、ご意見の中で、次期計画の中にこのような改善をとというご意見を頂いた。このような視点は非常に大切だと思っているので、前に行く方向で検討していきたいと思う。

(松本委員)

待機児童の対策について、先ほど来出ているハード面と、委員の方々から出たソフト面で、どのようにやっていくかという内容を、ぜひ次回に出していただきたい。

(事務局)

待機児童の対策の話については、次回、プランの進行管理もご報告する中で、今後の施策等についても言える部分があればご案内をさせていただきたい。既に施設整備一つ取っても、未来に向けた定員増の部分もある。そのようなところをご案内させていただきながら、整理する。

(室谷会長)

人材の確保や養成については、視点の中でも含まれる大きな問題だと思うので、事務局で検討をお願いしたい。

(事務局)

人材の確保については予算の関係もあるので、大変申し訳ないが、来月・再来月というところは言えないが、今の分かり得る範囲の中でご説明させていただきたいと思う。

(吉田委員)

今回のプランが令和6年までということなので、今の1歳児が6年後には小学生になる。そのような

先のニーズも少し考えていただければいい。今の1歳児が厳しいという現状が、6年後にはどうなっているのかということも加味しながらやっていただければと思う。

(事務局)

できるかどうか分からないが、やってみたいと思う。

(織田委員)

私の娘は2人目を妊娠していて、1歳5カ月になる子どもが、いわゆる保留児童数というところに入っていない、要するに、まだ手を上げていない状態のような「隠れ」がかなりいる。

このような中で、現状平成31年度が70人ということで、33人増えた。実際にどんどん環境が整備されてくれば、もっと待機児童が増えていく。そのような中で市としてどれだけの予算を、子どもたちに向けて支援していける予算を組めるのかはすごく重要だと思う。

横須賀市だけではなく全国的に少子化という問題がある中で、それを横浜市が支援するから、そちらに流れていく。行政単位で良くすれば、住み続けていく。40ページに書いてあるように、「横須賀に住み続けたい・住んでみたい」と書いても、題目だけではなくもっと根本的なところから、「横須賀市はこうあるべきだ」というしっかりしたものをつくり上げていく必要がある。横須賀で、本当に子どもを産んで育てていきたいというようなものを、もっと支援を厚くするような独自の制度を作っていただきたい。

(事務局)

保育士の処遇改善については横浜市と同程度であり、おそらく県内でもトップクラスの処遇改善をしている。

また、待機児童とは真反対なのかもしれないが、保育料についてもかなり軽減している。予算としても充実・拡充というものは、多分、横須賀市の中ではかなり充実している部分ではあると思う。市民に横須賀市を選らんでもらうという視点で考えたときにどのようにアピールしていくかなどは整理する。

(木津委員)

岩波委員や織田委員の言っていた「質」ということで考えれば、子どもの立場からすると、一番大事な何といっても自分の親・保護者だと思う。その方たちが、子育ての時間を確保することが、やはり子供が小さいときはとても大事だと私は思う。保育園をどんどんつくっていただくことはとてもいいが、時間をどんどん延長して夜中まで保育するのは、お母さんが何時になっても帰ってこないということになる。

例えば、この会議のように就業時間内に終わらせるようにしてくれば、保育時間の延長や、迎えに行くことが出来ないというようなことがなくなり、子どもと接する夜の時間帯ができる。積極的に昼間を使い、夜はしないということは、働いているお母さんにとって、とても大事だと思っている。

「夜は家族のためにある」というものを打ち出すことも、子育ての質の一つではないかと思う。保育園もちろん大切だが、「何時になればお母さん方が帰れる」というような仕事の流れ、横須賀独自の子育てを支援するような仕事のプランを考えてほしい。私たちが医師会で、夜7時から集っていたが、本当はいろいろな方々に迷惑を掛けている。多少の無理をしてでもいいから時間内に働くというところを示していただければ、家族にとってはいいのではないかと思う。そのようなものをモデルケースで、ぜひ横須賀市でやっていただいてもいいのではないか。

(室谷会長)

子育てについては、このような会議の議題だけではなく、働き方の問題や企業の問題など、いろいろな大きな問題がある。社会の環境の問題もある。だから、そこまでこのプランが及ぶかどうかは少し難しいかもしれない。それと同時に、家族が子育てに真剣に向き合うことは大事だと思うが、延長保育などは、働き方が今は変わってきて、勤務時間が多様化していることも踏まえて考えていかなければならない。単に長く働いているだけではないと、それも問題意識の中に入れておいていただければと思う。

その他(2) 今後のスケジュールについて

(一之瀬委員)

今年度にこのプランを策定していくことを考えたときに、今回は方向性について「今後の望まれるニーズ」や「潜在ニーズ」など、前向きな言葉を入れていただき、うれしく思っている。教育の質、待機児童、病児保育、一時預かり、この文言の中には仕事と育児の両立なども入っている。

その潜在ニーズなどをどう探っていくかが大事だと思う。それを考えた場合に、会議の間に、市民との対話の場や、市民の声を吸い上げる場というのがないと、多分本当の潜在ニーズが見えてこないのではないかと感じている。例えば、横浜市だと、グループトーク「みんなで話そう！横浜での子育て」ということで各区の中の全 18 か所を回り、市民との対話の場などを持っている。そのようなものを横須賀市で行い、本当に何も潜在ニーズがないのか。例えば、自分が他の市に住んでいて、どのようなものがあれば横須賀市に移り住んでくるか、または転居しようと思えば、何がネックで転居すると思うかなど、そのような対話の場などを持ちながら横須賀市と市民が距離を近づけて考えていくことも必要ではないか。

(事務局)

申し訳ないが、今のところそのような市民集会的なところは、スケジュールとして入れてはいない。基本的には、昨年度行ったアンケート調査の中から潜在的な部分をくみ取りながら、判断していきたい。

(織田委員)

追浜で、若いお母さん同士が手を携えていろいろな施設を使い、一月に1回など集まる場を独自につくっている団体が産声を上げている。保育所などに予算をつけることも必要だが、そのような草の根の活動という中で、新しい保育形態のようなものが芽生えてくる気もしている。そうすれば、それぞれお子さんを持っているお母さんでも、助け合いながら人の子どもと一緒に面倒を見られるような環境もできるような気がする。幼稚園・保育園という施設も、一時預かりも必要だが、新しいそのような動きも少し研究して見ていただいたらいいのではないか。

(室谷会長)

何か今のような情報が入ったら、また NPO の活動も大きくなっているので、いろいろと情報を全て頂ければと思う。

以上